

公益財団法人日本刀文化振興協会

平成 23 年度事業計画

(平成 22 年 12 月 1 日～平成 23 年 11 月 30 日)

1. 公益目的事業

① 第 2 回新作日本刀・刀職技術展覧会（主催）

会期：平成 23 年 6 月～7 月

会場：東京虎ノ門・大倉集古館

後援：内閣府・外務省・経済産業省・宮内庁・文化庁ほか関係省庁、団体・マスコミに要請

授賞：高田宮賞・内閣総理大臣賞・外務大臣賞・経済産業大臣賞・文化庁長官賞ほかを申請

助成：日本財団・芸術文化振興基金ほか

内容：作刀・彫金・研磨・刀装など日本刀にかかわるすべての伝統技術を対象に作品を公募し、厳正な審査を行い、優れた技術を顕彰し、伝統をリードする規範としてのコンクールとする。新たに「創作部門」を創設する。さらに、受賞・入選作品を展覧するとともに、作品集やホームページにて広報し、現代の高い技術と日本刀文化をアピールする。出品数の拡大と、集客 1 万人を目指す

② 第 4 回刀職者実技研修会（主催）

会期：平成 23 年 8 月下旬の 3 日間

会場：坂城町中心市街地コミュニティセンター（長野県）

参加：各刀職 3～7 名、計約 30 名（予定）

助成：日本財団または芸術文化振興基金

内容：日本刀にかかわる伝統技術のうち、刀身製作・研磨（鍛冶研ぎを含む）・拵下地（白鞘を含む）・金具製作（鍔を含む）・柄巻きの 5 職種を対象に、高度の専門職方を育成するための技術・知識・意識教育。同時に、講習の妨げにならない範囲で一般に公開し、日本刀及びこれにかかわる伝統技術の理解に供する。

③ 日本刀・刀装具公開鑑賞会（主催）

会期：平成 22 年 12 月・平成 23 年 2・4・6・8・10 月の 6 回

会場：江戸東京博物館ほか

内容：日本刀・刀装具・拵などを公開し、会員に限らず広く鑑賞してもらう機会とする。ビジュアルを活用した解説とともに、必ず初心者を対象としたコーナーを設ける。

④ 「天然砥石」調査研究事業（文化庁委託）

期間：平成 22 年 10 月 1 日～23 年 3 月 30 日

内容：アンケート調査・聞き取り調査・報告書作成

予算： 982,000 円

⑤ 北海道における日本刀の保存・活用と伝統文化総合活性化事業（文化庁助成）

期間：平成 22 年 10 月 1 日～25 年 3 月 31 日

年度・内容・助成申請額：

〈平成 22 年度〉

北海道における日本刀の保存・活用の現状調査研究 811,420 円

学芸員のための日本刀実践講座 1,282,580 円

〈平成 23 年度〉

学芸員のための日本刀実践講座 1,122,580 円

日本刀の保存と活用に関する支援コンサルティング 550,000 円

〈平成 24 年度〉

学芸員のための日本刀実践講座 1,122,580 円

日本刀の保存と活用に関する支援コンサルティング 1,100,000 円

日本刀と伝統文化に関する展覧会 3,000,000 円

計 8,989,160 円（各年度申請）

⑥ 第 6 回お守り刀展覧会（後援）

会場・会期：

坂城町鉄の展示館 平成 23 年 9 月～

備前長船刀剣博物館 平成 23 年 11 月～

主催：全日本刀匠会

内容：全日本刀匠会会員製作による新作刀および付属する外装の審査・授賞・展観。出品作を材料とする研究機会「刀職技術者実地講習会」（数回）を含む。

後援の内容：後援名義の交付、刀文協関係審査員の派遣など

⑦ シンポジウム「日本刀の魅惑と神秘を探る」Ⅲ（共催）

会期：平成 22 年 12 月・23 年 5 月（予定）

会場：千葉工業大学（予定）

共催：社団法人日本鉄鋼協会 環境・エネルギー・社会工学部会「鉄の技術と歴史」フォーラム

内容：わが国における鉄の使用開始から近代鉄鋼業確立に至るまで、歴史のすべての段階を世界的な視野に立って研究する「鉄のフォーラム」（平成 9 年発足）と共催し、日本刀をテーマとして総合的に取り上げ、学際的に研究を深めるとともに、各分野の専門家に日本刀をアピールする。

共催の内容：会場費・論文集制作費・講師料などの一部負担

〈次年度以後〉

⑧ 日本刀・刀装具等に関する講演大会の開催

⑨ 国際刀装具会など海外の日本刀関連団体との連携・交流事業

⑩ 海外の美術館などにおける展覧会・イベントの開催

- ・フレイザー国際歴史博物館（米国、平成 24 年）
- ・ギメ東洋美術館（仏国）

⑪第 8 回金属の歴史国際会議（後援）

会期：平成 25 年予定（シンポジウム 3 日＋遺跡など見学 3 日）

会場：奈良

主催：社団法人日本鉄鋼協会

内容：島根で開催した第 4 回（平成 10 年）では、17 カ国・91 件の発表あり。内容は金属と文化、鉄鋼技術、伝統技術、考古科学など。本会議開催までに 2 回のプレ国際会議が予定される。平成 23 年は岩手大学。

2. 収益事業

① 内外における新作刀の受託販売事業

② 内外における日本刀・刀装製作、研磨・補修などの受注・斡旋

③ 日本刀・刀装具等のWEB教育＋検定事業

3. その他事業

① 紀要『日本刀文化』の発行

発行：平成 23 年 11 月

以 上